

コミュニティカフェを中心とした地域活動の促進に関する研究 -埼玉県和光市アルコイリスカフェを対象にして-

A study on community activities in order to promote with a focus on community cafe - Focus on the Activity by “arcoiriscafe Wako, Saitama”-

○野口菜々子¹, 川島和彦²*Nanako Noguchi¹, Kazuhiko Kawashima²

Abstract: In recent years, the dating relationship between residents of the area have been dilutive. One of the activities for solving the problem is the community cafe. However, the effect is not clear and activities defined unclear. The purpose of this report is to clarify that through interviews and literature search is demanded from the people of the area for community exchange is promoted.

1. 研究の背景と目的

近年、地域の住民同士の交際関係が希薄化しているといわれている^[1]。特に郊外部では、都心に通う人のためのベッドタウンになっていることや、入転居率が高いことがその一因であるといわれている。それを解決すべく地域の人びともさまざまな活動に取り組んでおり、そのひとつにコミュニティカフェがある。コミュニティカフェにはさまざまな解釈があり、そのひとつに「地域活動^{*1}を促進するところ」という解釈^[2]がある。しかし、定義や活動に明確なものがなく、さらにその実態や効果はあまり明らかにされていない。

そこで本稿では、地域活動を促進することを目的として運営されている埼玉県和光市の「アルコイリスカフェ」を対象として、文献調査^{*2}およびカフェ周辺の来街者を対象としたヒアリング調査^{*3}を行い、その分析を通じてコミュニティカフェにおける地域交流^{*4}を促すための地域活動を行ううえで留意すべき点について明らかにすることを目的とする。

2. アルコイリスカフェの実態

2-1 アルコイリスカフェ開設の背景

アルコイリスカフェは、埼玉県和光市にある平成 26 年 3 月にオープンしたコミュニティカフェである。和光市は、平成 20 年に鉄道（地下鉄東京メトロおよび東急東横線）が開通したこともあり、ここ 10 年間での人口増加が著しい^[3]。そのようななか、市民のうち 7 割が地域活動に不参加な状況である^[4]。しかし、そのうち全体の約半数は条件が整えば活動してみたいと考えており、20 代では 6 割以上の方が活動してみたいと考えている^[5]。そのような人たちのための活動の場になるようにと企画されたのがアルコイリスカフェである。

2-2 アルコイリスカフェの現在の活動

アルコイリスカフェでは、飲食を提供する通常の活動のほか、小箱 BOX（委託販売）、ワンデイシェフ（1 日シェフ体験をし、実際に販売）、カフェ活プログラム（不定期で行われるワークショップ）を行っている。それぞれの利用者数をまとめたものが Table1 である。

Table1. Number of café users^{*5} 単位：人

2014 年	飲食	小箱	シェフ	プログラム
4 月	565	22	2	29
5 月	459	22	0	27
6 月	621	24	3	13
7 月	735	26	0	60

Table1 より、5 月の飲食を目的とした来店者数は前月と比較して減少しているが、6 月・7 月は前月より連続して来店者数が増えてきていることがわかる。しかし、小箱 BOX は、人数の変化が小さく、ワンデイシェフとカフェ活プログラムの参加者数の増減には特徴がみられない。このことから、カフェの認知度が高まり、飲食目的の利用者は増えてきたが、地域交流を目的とした利用はまだ進んではいない状況であると考えられる。

3. カフェ周辺の来街者の地域交流および地域活動の参加実態

Table2. Outline of research 単位：人（和光市民数）

調査方法	ヒアリング調査			
調査日	平成 26 年 8 月 24 日～9 月 7 日			
調査対象	アルコイリスカフェ周辺の来街者			
	10 代	30(13)	50 代	32(30)
	20 代	39(16)	60 代	30(25)
	30 代	38(25)	合計	200(125)
	40 代	31(16)		
調査場所	・和光市駅およびアルコイリスカフェ周辺 ・和光市中央公民館			
調査項目	・地域交流の実態について ・地域活動の参加実態について			

1：日大理工・学部・建築 Undergraduate Student, Department of architecture college of science and technology Nihon University
2：日大理工・教員・まち Associate Professor, Department of Town Planning and Design College of Science and Technology, Nihon University

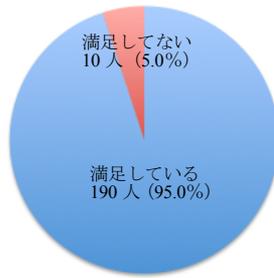
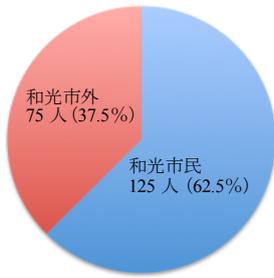


Figure1. Present home Figure2. Satisfaction of exchange

Table2. Purpose of visit to Wako (Target for out of town) 単位：人

学校	友人・恋人	買い物	その他
15	34	12	14

Table3. Degree of exchange 単位：人

	全く無	挨拶	会話	連絡	サークル	出かける
10代	3	27	0	0	0	0
20代	8	24	5	1	0	1
30代	0	11	10	11	2	4
40代	0	11	7	7	4	2
50代	0	6	8	2	13	3
60代以上	0	4	4	0	17	5
合計	11	83	34	21	38	15

Table4. Number of participants in community activities

(Target for resident of Wako) 単位：人(割合：%)

	祭り	スポーツ	講座	ボランティア	わこたん
10代	10(77)	13(100)	0(0)	4(31)	0(0)
20代	10(63)	7(44)	4(25)	8(50)	0(0)
30代	25(100)	24(96)	9(36)	10(40)	1(4)
40代	16(100)	16(100)	6(38)	8(50)	2(13)
50代	25(83)	5(17)	11(37)	7(23)	0(0)
60代以上	25(100)	7(28)	4(16)	12(48)	0(0)
合計	111(89)	92(74)	34(27)	49(23)	3(2)

3-1 カフェ周辺の来街者の地域交流の実態

ヒアリング調査を実施した結果、37.5%の人が和光市民ではなく、周辺の和光市以外から訪れている人であった (Figure1)。和光市を訪れた目的としては、通っている学校がある、友人に会いに来るなどが多かった (Table2)。このことから、和光市で地域交流を促すための活動を行う場合、市内の住民だけでなく和光市に頻繁に訪れる可能性のある周辺市外の人を対象にすべきだと考えられる。

交流の程度については、挨拶する程度の仲であると答えた人が4割以上を占めており、最も多い (Table3)。ただし、子どもがいる20~30代の女性は、ご近所の親同士連絡先を知っており、子ども服をあげたりするなど生活面で助け合うほどの仲であったり、ランチと一緒に食べに行くほどの仲であることもあった。また、50代・60代以上の人は、一緒にサークル活動やボランティア活動を行い、そのままランチに行くなどの交流を行っていた人もいた。一方で一人暮らしをしている大学生などは、挨拶なども含め、まったく交流がなく、今後も交流したいとは思わないと答える人もいた。こ

のような状況において、交流の少ない若年層も含め、全体で95.0%の人が現在の交流の程度に満足していることがわかった。

これらより、相対的に年齢が高くなればなるほど、交流を求め、若年層は地域住民同士の交流をあまり求めていないと考えられる。また、50代以上の求める交流の仕方は、挨拶や会話などだけではなく、一緒に趣味を楽しんだり、ともに活動することを求めていると考えられる。

3-2 カフェ周辺の来街者の地域活動への参加実態

Table4より、現在和光市内で行われている市民祭り^{※6}、スポーツ大会^{※7}、公開講座、ボランティア活動、わこたん^{※8}への参加実態は、どの世代も市民祭りに参加している人が多いことがわかる。また、スポーツ大会は学生であると考えられる10代、および30代・40代の参加者が多く、公開講座は50代、ボランティアは60代以上の参加者が多いことがわかった。このことから、世代により、地域活動に求めることに違いがあるが、祭りは、世代を問わず参加できるものとなっていると考えられる。

4. まとめ

以上より、年齢によって求められる交流の仕方は異なっており、コミュニティカフェにおいて地域交流を促す活動を行ううえでは、対象とする年齢層について検討し、ニーズに則した活動を行っていくべきであると考えられる。とりわけ、アルコイリスカフェでは、飲食を目的とした来店者が増えていることから、飲食を目的に来店した人を活動に取り込めるよう工夫すべきであると考えられる。

5. 注釈および参考文献

- ※1 アルコイリスカフェでは、地域活動を和光市内の多様な技術・能力をもった人が自身のスキルを発揮する場・プログラムの参加者に出会いの場・交流の場と考えており、本稿でも同義とする。
- ※2 アルコイリスカフェの月次報告書・企画提案書および和光市民意識調査の資料により文献調査を行った。
- ※3 2014年8月24日~9月7日にアルコイリスカフェ周辺においてヒアリング調査を行った。
- ※4 交流にはさまざまな程度があるが、本稿では同じ地域に住む住民同士がすれ違う際に挨拶をかわしたり、困った時に生活面で助け合ったりすることなど指す。
- ※5 アルコイリスカフェの月次報告書より作成。
- ※6 毎年11月上旬に開催される祭り。和光市駅南口に特設ステージを設け、神輿や、模擬店などが行われている。
- ※7 毎年8月頃に夏季スポーツ大会、10月頃に市民体育祭が行われている。
- ※8 和光市民向けのイベント企画。
- [1] 内閣府 (2007) 「国民生活白書」
- [2] 大分大学福祉科学研究センター (2011) 「コミュニティカフェの実態に関する調査」
- [3] 総務省統計局のホームページ
<http://www.stat.go.jp/>
- [4] 和光市役所 市のホームページ
<http://www.city.wako.lg.jp/>
- [5] 和光市 (2012) 「和光市民意識調査の結果」